

2022 年度活動方針

1) ビジョンに基づき組織づくりを進めよう

昨年できなかったビジョンに示されたミッションと行動計画、短期目標の見直しを進め、それに基づいてふさわしい組織のあり方を明確にして、組織基盤を強化します。

1-1) ミッションの見直し、中期計画と短期目標の作成

昨年度できなかったミッション一覧の見直しのための会議を設定し、ミッションを現状に即して整理し、それに基づく行動計画と短期目標を策定します(担当:理事長)。

組織強化のための1年目の目標として単発寄付者を20名増やす(2021年度11名)、会員を10名増やす(2021年度53名)の達成を目指します。

1-2) 財源の確保

ファンドレイジング計画を作成し、会費及び寄付金収入の増加を図ります(担当:事務局次長)。自主事業の業態の見直し等による収益性の改善を図ります。

1-3) 仲間を増やそう

入会案内パンフレットの叩き台をもとに4回目の会議を実施します。会議で出されたアイデアを具体化し、実行できるところから進めます。会員を増やすための役割を明確にします。(担当:副理事長(川原))

2) 研究活動を進めよう

河北潟ビジョンに基づき再汽水化に関する基礎調査や水田の生物について市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指します。

2-1) ビジョンプロジェクト

再汽水化プロジェクトについては、前年度の活動方針を踏襲し、大野川の塩分遡上調査の継続、大野川の河床断面の計測を進めます。シミュレーションについては大学の専門家にあたり進めていきます。河北潟総合研究第25巻が刊行された段階で、再汽水化にかかわるビジョンの見直し(水門等の扱いや望ましい塩分濃度)について議論を進めます。その他、外部研究者による河北潟の水性ミミズ調査を計画します。

地域循環共生圏プロジェクトについては、引き続き資料の収集を進めます。

流域再生プロジェクトについては、流域自然再生協議会の活動とリンクして話し合いの機会を設けます。

2-2) 市民参加型調査

大学生が参加するインターンシッププログラムの充実を図り、水田の市民参加型調査を実施します。流域のゴミ調査を進めます。

2-3) 機関誌紙

総合研究は編集委員会を開催します（座長：河北潟総合研究編集長）。投稿規定の見直しをおこないます。特集号の企画などに、新たな研究者に執筆者として参加いただくなどの取り組みを通じて、専門家とのつながりをつくります。2021 年度中に発行予定だった第 25 巻の 6 月中の発行を完了し、2023 年 3 月までに第 26 巻の発行を目指します。

『かほくがた』は、ボランティアを入れた編集会議を開催します（座長：かほくがた編集委員長）。早急に総合研究 24 巻を発刊し、25 巻発行の目処を立てます。『かほくがた』27-3～4 を早急に発行し、年度内に 28-1～4 を発行します。

3) 地域連携を進めよう

流域連携の仕組みを進め、流域協議会の発足を目指します。

3-1) 河北潟流域自然再生協議会

準備会事務局として、年度内に 5 回の準備会ワークショップを経て、2023 年度に法定協議会の発足につながるよう取り組みます。

3-2) 流域連携の推進のための部会

準備会ワークショップと並行して、2 つの部会を各 1 回以上開催します。

3-3) ラムサール条約登録に向けた連携

日本野鳥の会石川との連携を続け、河北潟のラムサール登録への気運をつくっていきます。流域自然再生協議会準備会の課題として取り上げられるよう取り組んでいきます。

4) 河北潟の環境保全の環を拡げよう

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拡げるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を進めます。

4-1) 観察会・シンポジウム

地球環境基金、エフピコなどの外部資金を活用して、例年規模の活動を実施します。一部を子ども向けの連続講座として実施することとします。連続講座修了者は「ジュニア河北潟流域レンジャー」として認定することとします。河北潟流域シンポジウムを実施しま

す。参加者、リピーターを増やすために、イベント終了時等に互いにいろいろな話をするミーティングの時間をつくります。

4-2) 七豊米

生産と生物多様性の保全の両立のため、さらに市民参加を進めます。

5) 自主事業の推進のために

常勤・非常勤スタッフを中心に、他の会員の協力のもと収益性の確保を進めます。

5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物（加工品を含む）

契約農家の水田が2枚増える予定です。新規農家に聞き取り及び関係づくりをおこない、流域認証を進めます。少なくとも2軒の農家に認証シールの発行を行います。

5-2) すずめ野菜

マルシェと結びつくことですずめ野菜の取り組みへの理解が広がるので、生産と販売を結びつけて地域循環型の活動モデルとなるように引き続き活動を実施します。農薬不使用で継続的に野菜を生産しているため、農業体験・研修の場として希望者は積極的に受け入れるとともに、観察会やボランティア参加を募集します。

5-3) 金曜マルシェ

採算性の点から、祝日は来場者および通行人がすくないため、今年度は休日とします。仕入れ・加工品販売ブースと、米・野菜販売ブースの2つで販売を進め、仕入れの品数を増やします。寄付キャンペーン、会員募集キャンペーンなどを実施し、応援者を増やす取り組みを進めます。

5-4) ネットショップ

ボランティアで、ネットショップも含めた研究所ホームページ全体の制作を希望している方がおり、打ち合わせをしながら、ホームページと併せてまとめていく方向で再構築します。米の商品ページに活動の他、お米の基本的な情報、保管方法等の情報を増やします。

5-5) 市民科学出版、その他出版事業

2冊程度の自費出版の受注を目指します。独自出版について企画化します。

6) 受託事業

現在の受注を続けることと、ホームページの作成管理などノウハウのある分野での受注

を目指します。

7) 助成金事業

助成金としては地球環境基金、エフピコ環境基金の活動を実施します。

7-1) 地球環境基金

流域協議会準備会の活動、流域新聞作成、流域ツアーの展開、農業体験活動、流域保全活動先進地域視察等を実施します。

7-2) エフピコ環境基金

流域の漂流ゴミの実態調査とゴミを減らすための啓発活動を実施します。